

これまで積み上げてきた取組の充実を願って命名しました。

西区幼保小連携推進協議会代表者会 令和4年11月14日発行

第2回西区幼保小連携推進協議会が、ちえりあ6階講堂を会場に集合形式で開催されました。第1回に続き、近隣の幼保小が顔を合わせ、ブロックに分かれて接続期の学びのつながりについて話し合いました。限られた時間ではありましたが、幼児の遊びの写真を見て、幼児が経験していることや育ちつつある姿を思い思いに見取り、意見交流して研修を深めることができました。

◆令和4年度テーマ

**学びをつなぐ幼保小連携・接続**  
～幼児期の教育と児童期の教育の理解を深める～

## ■第2回目のキーワードは「学ぶ」です

■幼児の遊びの一場面の写真を見てみよう。



松ぼっくりを下ま  
で転がしたい

コースを作るといいね

うまくいかないなあ

何を使ったらいいかな

押さえていて

ここから（写真右の  
棚）松ぼっくりを持っ  
て行ってね

〇〇くんの松ぼっく  
りは、転がった？

もう一回やってみよう

ガムテープにくっ  
ついちゃった

■経験している（学んでいる）こと、育ちつつある姿は何だろう。

- ・友達との関係性（役割分担、協同性、伝え合い 等）
- ・試行錯誤から工夫へ（もっと転がすには、曲がるにはどうしたらいいかな 等）
- ・遊びを発展させる力
- ・失敗の経験（学びへつながる）



- ・思考力の芽生え（スピードの違い 等）
- ・探究心
- ・協力する気持ち（一緒に考えよう、やろう 等）
- ・形や自然（自然物の活用、特徴の捉え等）
- ・話を聞こうとする態度



### ■ 幼児期に大切にしたい経験は何か。10の姿と照らし合わせてみよう。

- ・友達や先生と一緒にいる中で、ルールや決まりが生まれてくる。
- ・保育者が介入しすぎず主体性を尊重することが、遊び（学び）の深まりにつながる。
- ・子どもたちの気持ちを認める関わりは、幼児教育施設も小学校も共通である。
- ・遊びの中に10の姿につながっていることがたくさんある。どこを見ていくかが大切である。
- ・成功体験の積み重ねが大事である、意欲や次の行動につながっていく。
- ・繰り返し遊ぶ中で、変化するいろいろなことが思考（学び）を深め、よい経験になる。

### ■ 小学校の学習や生活場面につながっていく力を考えよう。

- ・子どもの主体性を大切にすることや失敗する経験等が、自己肯定感につながるだろう。
- ・自立心、折り合いの付け方、協調性が課題と感じる。
- ・園生活も学校生活も、「やってみよう」「やってみたい」と思えるような導入や環境の構成が必要である。
- ・友達と一緒にだと楽しいと思えることが大切である。
- ・幼児期は習得することより、それに向かって取り組む気持ちを育てる。小学校では技能技術面での習得が必須である。違いを捉えて理解し連携していくことが必要である。
- ・姿や考え方、捉え方は幼小で違いがある（視点の違い）が、育てたい姿や気持ちは一緒である。
- ・遊びを通して、小学校の学習につながる基礎や土台を幼児期に育てていることを確認した。
- ・幼保はその子の得意なことを評価する、小学校はテストや通知表で評価する、という違いを互いに理解して、学びのつながりを考えていくことになる。

## ＜研修を終えて～アンケートの声＞



- ・今の保育が小学校へつながっていることを感じた。
- ・非認知能力の大切さや継続した遊びを満足するまでできる環境の大切さを感じた。真剣に遊びに取り組むことで学習意欲につながる。「座って話を聞く」「長い話を聞く」ことに力を入れそうになっている部分を和らげられるよう担任と協力しようと思う。
- ・一つの遊びの中にたくさんの学びがあり10の姿すべてにつながるような要素があることを学んだ。
- ・子どもが「やりたい!」と思って学習に向かえる工夫を継続していきたい。
- ・幼保小で目標は違っても、育てたい力や姿は同じということ共有、再確認した。
- ・この研修で気付かされるが多かった。

次回は、1月12日（木）

キーワードは、「つなぐ」です。

- ・電話での引継ぎとなります。
- ・幼児教育センターから12月下旬に時程表が送付される予定です。お知らせをお待ちください。